



日本集中治療医学会50周年記念 サマーキャンプ in NISEKO
会期：2023年8月25日(金)～26日(土)
会場：ヒルトンニセコビレッジ (ニセコ町東山温泉)

モーニングセミナー3

日本におけるCritical Care EEGのゆくえ

神経集中治療の最新動向と 日本での展望・遠隔脳波判読

座長

黒田 泰弘 先生

香川大学医学部 救急災害医学講座

演者

久保田 有一 先生

東京女子医科大学附属足立医療センター 脳神経外科

日時

8月26日(土) 8:00～8:45

会場

E会場 (2F パブエゾ) ヒルトンニセコビレッジ

本セミナーに整理券配布はございません。会場に直接お越しください。

実施詳細は、大会ホームページをご参照ください。

<https://www.jsicm.org/niseko.html>

Abstract

国内の神経集中治療の現状を見ると、非けいれん性てんかん重積を検出するための脳波モニタリング測定環境は充実してきたが、速やかに治療介入するための迅速な評価を行える環境がまだ整っていない。測定、評価、治療介入の流れが迅速に行えることで、はじめて神経集中治療を行った患者のアウトカム向上に反映すると考える。

これらの日本特有の課題に対し、解決を図る試みがなされてきた。数年前に上市されたヘッドセット脳波計は、ヘッドサイドで迅速測定することが可能になった。また、昨年、脳波解析ソフトウェアが発表され周期性発射PDsと棘徐波/鋭徐波Spike and Wave検出を自動化が可能になった。さらに、遠隔で迅速に脳波の共有を行い早期に判読を行うための、医療機器ベンダー間同士の協力体制も確立されてきた。

本セミナーでは、日本での神経集中治療の現状と、課題解決に有用と思われる最新の動向をいくつか紹介し、今後我々が目指すべき日本の神経集中治療のゆくえについて皆様と一緒に考える機会としたい。